

研修医の自己紹介



北部地区医師会病院 仲西 貴也

初めまして。私は平成19年の3月に琉球大学を卒業し、4月から名護市にある北部地区医師会病院にて初期臨床研修を始めさせていただいている仲西貴也と申します。この文章を書いている時点で、研修が始まってから、早いもので既に3ヵ月半がたち、まだまだではありますが、なんとか医師としての仕事の全体像が掴めてきたかなという状況です。このような若輩者である自分がこのような公の場で意見を述べさせていただくなど、本来は恐れ多いことです。先輩の先生方を満足させるような文章など到底無理なことではありますが、この機会を与えていただいたことに感謝しながら、今回は私が現在の病院を選んだ理由や4月に研修を始めてからどのように過ごしてきたのか、また、それに対して感じたことなどを書かせていただきたいと思います。

先輩の先生方はすでにご存知のことと思いますが、4年前より始まった初期臨床研修制度はマッチングによって研修医の希望する病院が選べます。研修医側が研修したい病院と病院側が採用したい研修医が一致した際に研修先が決定となるシステムです。私は学生のときに北部地区医師会病院に見学に来て、ぜひこの病院で研修をしたいと思いました。他の研修病院を選んだ研修医の方々もそれぞれ現在の研修病院を選んだポイントがあったと思いますが、私が現在の病院を選んだ大きな理由の一つは上の先生方との距離が近く、何でも相談できる雰囲気の病院であったことです。やはり研修医にとって研修中は悩みの連続です。悩みが尽きることがありません。そのような時、診療科の隔たりなく先輩の先生方に相談でき、学んでいける環境はと

ても魅力的でした。また看護師などパラメディカルの職員から事務の職員の方々までとても気さくで病院全体がアットホームな感じでした。言ってみれば、病院全体で研修医を受け入れ、一緒に頑張りましょうという雰囲気が感じられたのです。

私は非常に幸運なことに、希望する病院にマッチングすることができました。いよいよそこから研修が始まるのですが、そうは言っても、3月に医師国家試験に合格したばかりの研修医に何かできるはずもありません。診察、診断、治療何一つ満足に行えず、病棟の仕組みすら理解していません。そのため、北部地区医師会病院ではまずオリエンテーションとして、研修の始まった最初の2週間は病院内の各部署、例えば薬局や放射線室、リハビリ室や栄養室などパラメディカルの部署を各1～2日ずつ回って実習させていただくカリキュラムとなっています。病院内の各部署は、医師として普通に勤務していると、何をしているのか意外によく分かりませんがこのように研修の始まりで実習させていただくことで、それぞれの部署が病院内でどのような役割を担っているのかななどを自分の肌で実感させていただくことができました。

このオリエンテーションが終わった後に医師、研修医としての勉強が始まることになったのですが、先ほども述べたように、この段階では研修医は何も分かりません。検査や処方のおオーダー一つできませんでした。そこで2年間の研修を通して、医師としての相談、またプライベートなことに關しても相談に乗って下さる指導医の先生についてまわり、点滴の選択や採血手技などを始めとして、医師の先輩方からする

と当たり前のことを一から勉強させてもらいました。

それから約3ヶ月半たちました。研修を始めた頃と比較してだいぶ慣れてきたとはいえ、当然のことながら、まだまだ勉強不足な自分を日々感じます。指導医の先生が当たり前のように内服薬の処方をしている傍らで、初めて聞く薬の名前に対しあわてて医薬品集を引きながら調べている自分がいます。指導医の先生が手際よく身体診察をこなしていく傍らで、先生の指摘した所見をとれておらず、あせっている自分がいます。回診で上の先生方がポイントを押さえたプレゼンテーションをしている傍らで、要

領を得ずしどろもどろになりながらプレゼンテーションをしている自分がいます。

言うまでもないことですが、まだまだ先生方のレベルには到底追いついておらず、一人では何もできない状況に変わりはありません。これからは指導医の先生を始め、多くの先生方にご迷惑をおかけしながら研修を続けていくことは容易に想像ができます。ですが少しずつでも医師として学ぶべきことをできるだけ早く、またできるだけ多く習得していきたいと思っています。そして少しでも先生方に近づけるように精進していきたいと考えていますので、今後ともよろしく願いいたします。



左より、指導医の與那嶺幸司先生、著者、同じく研修1年目の大城信行先生